

働き方改革の視点からの「学年チーム担任制」 可児市立西可児中学校

1 取組の内容

(1) 学年チーム担任制の導入

本校では、昨年度（令和5年度）より1人の学年主任と4人の学年職員が日替わりローテーションを基本とする「学年チーム担任制」を実施している。

(2) 情報共有方法の工夫

- ・情報共有の放課後時間の確保 ⇒ 掃除日数や行間時間を見直すことによる時間の生み出し。会議資料は全てデジタル化のペーパーレス。
- ・ネットワーク上での情報共有 ⇒ 言葉で話すことに加え、共有時間以外にいつでも見られるように気になったこと等を記入し蓄積していく。

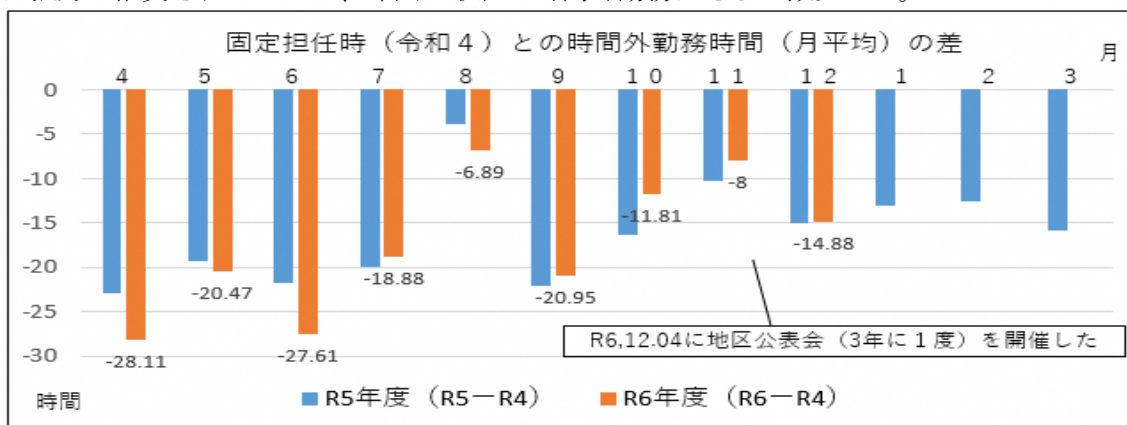
2 取組の結果

毎日担任業務を行う者が変わるので、生徒にも「皆が担任」という意識が芽生え、朝の会と帰りの会で人が変わることに違和感が無くなった。それにより以下の変化がみられた。

- ・年休や特休を取りやすい、出張に出かけやすい雰囲気が増加した。
- ・部分休や育児短時間勤務職員の精神的負担が軽減した。
- ・若手職員はベテラン教師から、指導方法を見て学んだり、生徒指導に関する交流をしたりする中で、一人一人に寄り添う指導の在り方を自然な形で学ぶことができた。
- ・保護者から寄せられる意見などに、複数で対応しやすくなった。

3 成果

以下は、実施前（令和4年度）との比較である。これ以前も様々な方途で「働き方改革」は強力に推奨されていたが、今回の取組で時間外勤務はさらに減少した。



また、「働き方改革」は時間外勤務の減少だけで示されるものではない。通常勤務者に加え、多様な働き方の者や、非常勤講師等の職員からも「働き甲斐と働きやすさのバランスが良くなった。」という言葉が聞かれたことも大きな成果である。

生徒の意識調査でも81%が、「固定担任制よりもチーム担任制の方がよい」と答えている。これは、生徒と先生の関係性も良くなっていることの表れでもある。

学年チーム担任制を中核にした「教師の心にゆとりをもたせる働き方改革」と「生徒と教職員の温かな関係性」は相乗効果があると確信している。